

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第3回）会議要録

- 1 日 時 平成30年9月18日（水）19時03分から21時04分まで
- 2 場 所 武蔵野市役所802会議室
- 3 出席委員 宇田川、大屋、熊田、合原、酒井、田中、千種、中西、花俣、深田、
本多、森安、矢島、蓬田、綿貫
- 4 欠席委員 熊谷（敬称略）
- 5 事務局 渡部常務理事、森事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 1名
- 7 議 事

(1) 開 会

(2) 委員長挨拶

【委員長】 始めさせていただきます。今回もグループワークを行います。前回とは違う委員によるグループ構成になっています。本日は地域懇談会による意見をもとに、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

(3) 議 事

①第2回策定委員会 会議要録確認

資料1に基づき事務局より説明を行った。特に委員からの質問等はなかった。

②地域懇談会から見える武蔵野市の地域課題

資料2～資料4に基づき事務局より説明を行った。

【委員】 4ページと5ページのところで、一番右の「境」と「中央」の欄が混ざってしまっているようですが、このままでよいのでしょうか。

【事務局】 失礼しました。4ページのD「地域社協」で、「境」が一番右端に記載されていますが、それ以外のページでは右から2行目に記載があります。地域名は合っておりますので、この部分は「境」で出た意見と理解いただければと思います。

【委員】 一連の流れを確認したいのですが、前回の計画に対する評価は、前回の委員会で資料として出された、社協の皆さんがいろいろ評価をしたものをもって終わったという考え方でよろしいのですか。前回の計画ができたのか、できないのかという問題が最初にあるはずですが、今回もあくまでも今後の課題について

て議論するわけですね。

【委員長】 そうです。

【委員】 要するに、できたこと、できなかったことが明確になっていないということではないでしょうか。明確になっていないという言い方が正しくなければ、こういう考え方で整理しました、これをベースに議論しましょうということでもよいのですが。一番簡単なのは、できたのか、できなかったのかをイエスかノーかで1つずつ答えていくこと、あるいは点数をつけることです。しかし色々難しい部分があって、そういった評価ができないけれども、こういう整理をしました、こういう問題がありました、こういう課題が残っていますという意見を基に議論が進むという理解でよろしいのかどうかです。

また、前回のグループワークはそれを受けて、前回の計画で残された課題だとか、うまくいった理由だとか、あるいは、うまくいかない理由等を整理したと思っているのですが。そういう理解でよろしいですね。

【委員長】 はい。

【委員】 1つお願いがあるのですが、議事録としてはこれでいいと思いますが、これだけでは、キーポイントが分かりません。それが分からないということは委員の皆さんの考えがずれてくる可能性があるので、やっぱり最終的に一言で言うと、これが問題だねというように、どこかで整理をしてほしいと思います。

【副委員長】 前回の議題であった第3次活動計画の振り返りは一度置きまして、今回は地域懇談会で出されている現在の課題を議論いただく形にできればと思います。そのうえで、これまでの委員会の意見を突き合わせ、どこができたのか、できなかったのか、地域の中でどういう課題があるのかを立体的に検討していくという理解ではいかがでしょうか。事務局はいかがですか。

【事務局】 第3次活動計画の振り返りや、地域懇談会の課題等、一回の委員会で完結する形ではなく継続して意見をいただき、最後にそれを抽出して一つにまとめるということでもよろしいでしょうか。

【副委員長】 そのために、まずは全体像を委員会として把握できればと思いますし、事務局としても、様々な意見を集約する必要があるという理解でよろしいですかね。

【委員長】 他には、よろしいでしょうか。

【委員】 議論の進め方で少し整理が必要かと思います。本来であれば、全地域の地域

懇談会が終了し、共通の課題やどんなまちにしたいというものがある、それをこの委員会の中で検討するという流れのはずですが、そうになっていないですよ。

現時点で終わっていない地域もあるなかで、この委員会で議論された内容は、地域社協にもう一度返され、地域社協での議論が、委員会での議論と並行して進められるのかということが1点。

それから、今回の資料では15の 카테고リーに分けられているのですが、これをグループ毎に自由に選んで議論すると、收拾がつかなくなるのではないかと思います。例えば、人と人とのつながりやコミュニティ、高齢・子ども・障がいというような人の属性にかかわるもの、道路・交通、病院、買い物という、まちづくりのハード面の部分等、大きくグループにして、それぞれを意識して議論をしたほうがよいのではないのでしょうか。

【委員長】 地域懇談会で出た全ての課題を一つずつ見ていくことはできませんから、当然ある程度のグループに分けて議論することになります。まだ懇談会が終了していない地域もありますが、活動計画は市全体で取り組む計画ですので、特に、全体にかかわる部分について議論できればと思います。

【事務局】 本日この場でカテゴリーを再分類し議論をするのは、少し難しいかと思えます。当初は議論するカテゴリーは指定せず、各グループで決定するという予定でおりましたので、できればそのようにと思えます。

【委員】 これまでの話のとおり、全部の課題について議論するのは厳しいと思えます。当初の予定に沿うようになるかもしれませんが、各グループで議論したうえで、話すカテゴリーを選ぶ形にしてはいかがでしょうか。網羅的にやるグループがあっても良いですし、特定のカテゴリーを集中して議論するグループがあっても良いと思えます。

【副委員長】 地域の課題は、委員によっても見方が変わってくると思えますので、それぞれのグループの中で、日常の経験等にも触れていただきながら、議論を深めるという形ではいかがでしょうか。そういう意味では、グループ毎にカテゴリーを決めるという方法に私も賛成です。

【委員長】 そのような形でよろしいですか。では、それで進めたいと思えます。

【事務局】 議論が多かったカテゴリーは、委員会の共通課題としてまとめます。最後の

発表の際に、各グループで議論したカテゴリーをまず教えていただければと思います。各グループには職員が2名ずつ入り、前回と同様に説明や記録等を行います。よろしくお願いいたします。

(グループワークを実施)

【委員長】 それでは、Aグループから順番に発表をお願いします。

【委員】 Aグループでは、個別・具体的な課題というよりも、地域社協という存在そのものについて考えてみました。

具体的には、多くの人にとって、地域社協というもののハードルがかなり高く、そこに加わりづらいことで、活動のメンバーが集まらなかったりとか、当事者意識も持ちにくいのではないかという話になりました。また、名称に「福祉」が入るだけで、自分の関心とは違うものというような認識をしてしまうのではないかという話が出ました。自分と同じ世代の20代、30代を見ている、「福祉」という言葉に対してぴんとこないという話もしたのですが、ネーミング一つをとっても、そこに参加したいと思うかどうか、一員に加わりたと思うかどうかは大きな影響があることです。例えば、市民社協と地域社協の関係性や違いについても、理解がなかなか進んでいないことが課題として挙げられました。

また、地域毎にそれぞれ課題がありますが、共通する課題もあるし、いい解決事例だったり、具体的にアクションしてみたけれども失敗してしまったり、そういう様々な事例や経験を横土士のつながりでもう少し共有したりとか、学び合う機会があってもいいのではないかという話が出ました。

こういった地域毎のつながりを持つという点でもそうですし、地域内のハブの役割を地域社協が担うと考えた場合、やはり地域福祉コーディネーターのような専門職の支援も必要なのではないかという話になりました。

あとは、地域の中でコーディネートを行う人材を育てる、発掘するというところを考えた場合、例えば地域福祉ファシリテーター養成講座を、現在は3市合同で行っていますが、武蔵野市で独自の事業を行うことで、より地域に詳しく、活躍できるような人材を見つけることができるのではないかという話が出まし

た。

最後に、高齢者や障がいのある方が地域で暮らしていくためには、地域福祉権利擁護事業の重要性が増すことが考えられるため、武蔵野市で当該事業を実施している福祉公社についても、活動計画の中で明確に位置づけたほうがいいとの話が出ました。

【委員長】 ありがとうございます。続きましてBグループ、お願いします。

【副委員長】 地域社協ではなかなか人が集まらないとか、高齢化が進んでいるという問題提起がありました。また、委員の一人が地域デビューした際、背中を押してくれたのがボランティアセンター武蔵野（VCM）だったという話を踏まえ、このグループでは、主に地域のつながりとか、地域で活躍できる人をどう増やしていくのかが話の中心になりました。その中でまず出てきたことが、きっかけがすごく大事だろうということです。

そのきっかけをどう考えるかというところでは、地域社協等で取り組んでいる地域型の取り組みと、あるテーマに沿って活動する市民活動型の取り組みがあるので、この地域型と市民活動型が、どうつながるかを考えることがきっかけになるのではないかと。

また、地域に出るきっかけをつくるためには敷居を下げることも大事なのではないかと。そういう意味では、従来行われている祭りのようなイベントは敷居が低い。何か組織に所属しなくても、敷居が低い取り組みもあるし、今、武蔵野市の中で広く取り組まれているサロンもどこかに所属するものではないため、そういう意味では「楽しみ」が地域デビューのきっかけにつながるのではないかと。

一方で、サロン活動については折り紙や歌のような従来のもの以外の活動もしたいというニーズもあることから、もう少し内容を広げると地域にデビューするきっかけになるのではないかとという話が出ました。

また、これはAグループでも出ましたが、福祉というどうしても、孤立とか災害というような、不安に訴えるようなアプローチが多いので、それ以外のアプローチが大事なのではないかと。要するに、楽しいとか取り組んでよかったと思えるようなものを、どう伝えていくのかがきっかけづくりになるんじゃないかという話もありました。

いずれにしても、地域に出ていく、その第一歩をどう押すかということと、地域のつながりが、資料4のさまざまな課題を解決するベースになるという話がBグループの大きなテーマだったと思います。

【委員長】 ありがとうございます。続きまして、Cグループお願いします。

【事務局】 Cグループでは、地域社協の話から議論が始まりました。本日話がありました目標の振り返りやすさとか目標設定の話になり、民生委員と地域福祉コーディネーターの話にもなり、仲間づくりの大切さの話にもなり、お金の話にもなり、制度の整理の必要性の話にもなりました。

特に抜粋してお話ししますと、地域社協がそもそも何をやっているのかわかりづらい。民生委員だったり青少協だったり、いろいろな活動をしている人たちはいるけれども、わかりやすく説明するより前に、それをわかりやすく説明できる人がどれだけいるのかという話がありました。

それから、目標設定の話では、目標が曖昧だと振り返りが難しくなるため具体性が必要ではないかという意見もあったのですが、一方でボランティア活動が中心でもあるので、どこまで拘束力を持たせられるか。そういったジレンマの中での目標設定のヒントがあればよいという話が出ました。

また、制度が複雑化しているという話では、具体的な案として、コミセンの中に福祉部をつくり、地域社協のように活動できないかというアイデアも出ました。さらに、何かするにも活動にはお金がかかる、お金を出すには基準が必要ということになり、これもまたジレンマですね。こういう中で自由に活動していくための仕組みはどのようにつくることができるのかと。これも白熱した議論になりました。

最後に市民社協についてですが、市民社協では現在40以上の事業を行っているものの、細かい事業を少しずつやるよりも、大きな事業をやってはどうかというご意見をいただきました。例えば北町事務所を4階建てにして、1階部分は人がもっと集まる事業を行う、2階部分は市民社協の事務所、3階部分はホールで大人数の会議ができる場所というような、「市民社協はこれをやっている」と見えやすくするようなものをイメージする話がありました。

その他の話もありましたが、あらためて記録をご覧いただければと思います。

【委員長】 ありがとうございます。確かに市民社協の建て替えは考えたほうが良いと

思います。次はDグループお願いします。

【委員】 武蔵野市で地域活動に関わる典型的な例として、例えばPTAから始まり、青少協に入り、福祉の会に入って、民生委員になるというようなイメージもあったのですが、世帯の多様化や労働者の高年齢化等の傾向もあり、従来のような人集め、人づくりの構図、システムはなかなか機能しなくなっているという話が出ました。

一方で、定年退職後の男性であっても、趣味活動等ではつながっていることもある。楽しいことであれば、何らかの形でつながって活動を続けられるという話もありました。

また、かつては地域活動をしている人と比べると、趣味活動をしている人は地域のつながりが十分ではないのではないと言われる雰囲気もあったと思います。でも、それでも何らかの形で人や地域とつながっているのだから、それでも良いのではないかという話も出ました。たとえ趣味や楽しみを通じたつながりでも、いざ何かあったときに、あの人のことが気がかりになったとか、助けてもらえるようなつながりになるかもしれない。「楽しい」という言葉はキーワードになるのではないかというのが一つです。

それから、第1回策定委員会において「我が事・丸ごと」の話がありましたが、当事者性は自分が当事者になって初めて感じられるものだと思います。

例えば、北町高齢者センターでは建物を改築して、子ども広場をつくりました。子ども広場の運営は、子育てをしている地域のお母さんたちの団体が担っているのですが、そもそも最初からそのような団体をつくろうと思っていたわけではなかったようです。しかし、家族や知り合い等で相談する相手もおらず、育児不安を経験した際、自分たちと同じように思っている人たちがいるだろうということで団体をつくり、悩みを聞いて、当事者同士が相談し合える場をつくりましょうということで団体をつくられた。その方々が、今は子育てひろばの運営をしていて、すぐそばには北町高齢者センターがあるわけですから、そのボランティアにも登録をさせていただいている。赤ちゃんを連れてお母さんたちが行けば、高齢の利用者の方はすごく喜びますし、お互いにウィンウィンの関係ができていくということがあります。

当事者性というのは、自ら気がつくということでしか獲得されないし、そこ

からしか始まらないということで、当事者性に気がつく仕組みだとか、あるいは、当事者である人たちをどうつないでいくのが大事なのではないかという話をしました。

もう一つのキーワードが、1人にしないことを考えるべきではないかということです。孤立防止という話をよく聞きますが、武蔵野市は高齢者の4人に1人はひとり暮らしという状況で、そのことは客観的には知っているけれども、1人である人に対して何か働きかけをするとか、1人である人が他の人とつながれるような機会がなかなかないという話になりました。

今年、イギリスで社会的孤立の課題に政策として取り組むために、孤独担当大臣というポストが任命されたそうですが、それほど孤立・孤独は大きな課題だと思いますので、孤立・孤独にさせない、1人にしないということを考える、そういったこともこれからの地域活動を考えていくうえでは大きな課題なのではないかと思います。

あとは、団体同士のつながりです。ある団体にとっては課題だと思っても、ほかの団体にとっては課題だと認識してもらえないことがあるという話がありましたけれども、それもやはり、当事者性が関係しているのではないのでしょうか。

Dグループでは、一つには楽しむ。楽しんでつながっていることも大事ではないかということ。それから、当事者性。当事者としての意識や自覚。そういったものが大事なんだろうということ。最後に、孤立にさせない、1人にしないということ。この3つですね。これらのキーワードをもとに、地域をもう一度見直すような、しくみのところまでは話ができませんでした。そういった話が出ておりました。

【委員長】 ありがとうございます。人とのつながりとか、社会的に1人にしないということも大事ですし、計画の中で誰が何をどう進めて、どうやって実行していくのかということも非常に大切で、その点もふまえてこの委員会の中で検討していければと思います。

また、地域社協に何でも任せるのではなく、それをサポートするという視点も大切です。例えば、NPOと連携するとか、地域社協だけで何でもやろうとするのではなく、他との連携で新しい人材とのつながりを作るといった考え方も

必要ではないでしょうか。

時間になりましたが、事務局から何かありますか。

【事務局】 次第にあります。次回は10月31日、火曜日の19時からです。場所は西棟4階の412会議室になります。会場が変わりますので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

【委員長】 ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

【事務局】 資料3として、地域懇談会の一覧表をお配りしています。終了しているものは「済」となっていますが、今後実施する懇談会について、策定委員の方から参加してみたいというお話もいただいています。ほかの委員の皆様で、地域懇談会に参加を希望される場合は、事務局までご連絡をいただければと思います。

【委員長】 それでは、第3回の策定委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。